



5/30 平安の面影を後世に伝えていく ～賀庭寺保存会 ラジオの生放送に出演～

▶遊びに来ていた府本小学校の子どもたちも収録に参加しました



榿地区にある賀庭寺は平安時代の末頃に平清盛・重盛が建立したと伝えられていて、中世の石造物群は県指定文化財、近世の石造物群と薬師堂に安置する仏像群は市指定文化財です。

賀庭寺の特集がRKKラジオで生放送され、保存会会長の田中明義さんは「賀庭寺の素晴らしさを地域の宝として後世に伝え、いつまでも残していきたい」と話していました。21日(日)には賀庭寺シンポジウムが行われます。詳しくは27ページをご覧ください。

6/4 花が彩るおもてなしの道 ～グリーンアベニュー通り花植え～

▶雨の降る中、参加者は熱心に花を植えていました



宮内交差点から池黒池付近まで約1.8kmの区間にあるグリーンアベニュー通りの花壇に黄色のマリーゴールドの苗およそ1,800株を植えました。雨の降る中、地域住民や通りを通学路にしている第一小学校の生徒など約30人が参加。観光客が多く通る道路をきれいな花でもてなそうと、春と秋の年に2回実施しています。

植栽後は、花をもらえるジャンケン大会や消防署の見学会が行われ、参加者は歓声をあげていました。

6/12 心を一つに「うつくしい熊本」へ ～文化講演会～

▶左から行定勲さん、姜尚中さん。当日は満席となるにぎわいでした



文化センターは開館30周年記念事業で文化講演会を行いました。県立劇場館長の姜尚中さんと映画監督の行定勲さんが熊本地震のことや、同時上映されたくまもと映画プロジェクト「うつくしいひと」について講演しました。

市外からの参加者も多く、大ホールが満席になるほどのにぎわいを見せていました。参加者は「熊本のきれいな景色に心打たれました。また早くあのきれいな熊本に戻ってほしい」と話していました。

6/12 市の玄関口をみんなできれいに ～荒尾駅前花壇夏の植栽～

▶赤や黄色の花が植えられ、駅前が華やいだ様子でした



荒尾駅は、JR、バスやタクシーなどで多くの人が往来する荒尾の玄関口です。利用者に癒やしを届けようと、地域住民を中心とした約40人が駅前花壇に花を植えました。平成24年に駅前を改装して以降、除草や花植えに取り組んでおり、夏と冬の年に2回花の植え換えをしています。今回はマリーゴールド、ポチュラカ、サルビアの花、約600本を植えました。参加者は「駅の利用者に、きれいなまちと思ってもらえるような花壇にしたい」と話していました。

6/12 日頃からの訓練の成果を披露 ～消防ポンプ操法大会～

▶雨の中、出場した団員たちは勇壮な姿を見せていました



消防ポンプ操法大会が荒尾消防署で行われました。消防団の消防技術の向上と士気高揚を目的として、二年に一回開催される大会です。例年では県大会の出場チームを決める大会なのですが、熊本地震のためにことしの県大会は行われません。小型ポンプを使って4人1組で行う「小型ポンプ操法」で、操作の安全・確実・迅速性、規律・節度・団結力などを競います。雨の中の大会でしたが、大きな掛け声とスピード感溢れる機敏な動きで会場がにぎわっていました。

6/12・13 学びの成果を披露する晴れ舞台 ～ふれあいエポック・荒尾まつり～

▶演技発表者の息の合った踊りは来場者を楽しませていました



ふれあいエポック・荒尾まつりはエポック荒尾と中央公民館で行われました。俳句、絵手紙などの作品展示や、演技発表ではエアロビクス、日本舞踊、カラオケなどが披露されました。来場者は展示された作品を足を止めてじっくりと見たり、元気よくダンスなどを披露する出演者に拍手を送ったりしていました。演技発表に出演した人は「毎回ドキドキして緊張していますが、間違いもなく発表できた。今後も元気を維持して続けていきたいです」と笑顔で話していました。

それいけ! 我らスポーツ少年団

このコーナーでは、市内で活動中のスポーツ少年団を紹介します。



No.7 少林寺拳法荒尾

礼儀を重んじ、社会貢献できる大人へ

小学1年～中学3年生・22人で週に5回、練習しています。ことしで創設40年目を迎えました。力と愛情は分けることができないという力愛不二の精神を大切に、技を磨くだけでなく、精神を鍛えて、思いやりのある人になれるよう指導しています。村井廉君(海陽中3年)は「楽しみながら練習しますが、組手の時などは本気で相手と対峙します。8月の県大会でまずは優勝して、全国大会でも良い成績を出せるように頑張りたい」と話していました。

関宮崎(代表) ☎ 090-9597-4820